

整形外科

(1) 到達目標

整形外科では、骨・軟骨・筋・靱帯・神経などから構成される運動器官の疾患・外傷に対応できる基本的な知識と初期診断能力および初歩的治療技術を習得する。

(2) 行動目標（代表的行動）

1. 適切かつ迅速に問診及び局所・全身の身体所見をとることができる。
2. 骨・関節・筋肉・神経・脈管の解剖と生理の基本的知識をもっている。
3. 基本的な神経学的所見をとり、記載できる。
4. X線、CT検査で、骨折、脱臼等の基本的な診断が行える。
5. 骨折・脱臼などの緊急性を的確に判断し、速やかに専門医に相談できる。
6. 脊椎疾患に対するMRI, CT, 脊髓造影などの画像診断の基本的な読影ができる。
7. 骨折、脱臼等の初期治療として副子固定法、ギプス包帯法、牽引法ができる。
8. 骨折、脱臼等の合併症（コンパートメント症候群、神経麻痺、脂肪塞栓など）の早期発見ができる。
9. 新鮮挫傷に対する初期処置（創の洗浄、デブリードマン、創の縫合）ができる。
10. 四肢神経ブロック、局所麻酔、関節注射等の基礎的臨床手技ができる。

(3) 方略（LS）

- ・整形外科研修開始時に、指導医・上級医と面談し、研修目標の設定を行う。
- ・毎朝（8:00）の X線読影会に参加する。
- ・副担当医として入院患者を受け持ち、主治医・担当医の指導のもと、問診、身体診察、検査の評価を行い、治療計画立案に参加する。
- ・カンファレンス（整形外科カンファレンス 火曜日 7時30分から8時、脊椎カンファレンス 月・金曜日 7時45分から8時、関節カンファレンス 火曜日 7時45分から8時）に参加し、担当患者の症例提示を行ない議論に参加する。
- ・抄読会（火曜日 7時30分）で整形外科に関連する英語論文の和訳、発表を行う。
- ・創傷処置、抜糸などを術者・助手として行う。
- ・主に助手として整形外科各手術に参加する。
- ・救急患者来院時、担当医とともに初期診断、初期治療を行う。
- ・整形外科研修終了時に、評価票の記載とともに feed back を受ける。

(4) 評価（EV）

- ・研修医は、ローテート終了時に自身の研修達成度を確認しながら、自己評価を行う。
- ・指導医あるいは上級医は、全ての行動目標に対して、観察記録あるいは口頭試験などによる形成的評価を適宜行う。目標によっては必要に応じて看護師など医師以外の評価者も観察記録による形成的評価を行う。総合的な評価結果はローテート終了時に feed back されるとともに、オンライン臨床研修評価システムにて記載される。
- ・指導医は提出された病歴要約により、経験すべき症候・疾病・病態に関する理解度について形成的評価を行う。

【週間スケジュール例】

	月	火	水	木	金
朝	脊椎カンファ X線読影会	股関節カンファ X線読影会	整形カンファ X線読影会	X線読影会	脊椎カンファ X線読影会
午前	外来/病棟	手術	外来/病棟	手術	外来/病棟
午後	手術	検査/手術	手術/検査	手術/検査	手術
15:50		股関節カンファ			
16:30		整形カンファ			